

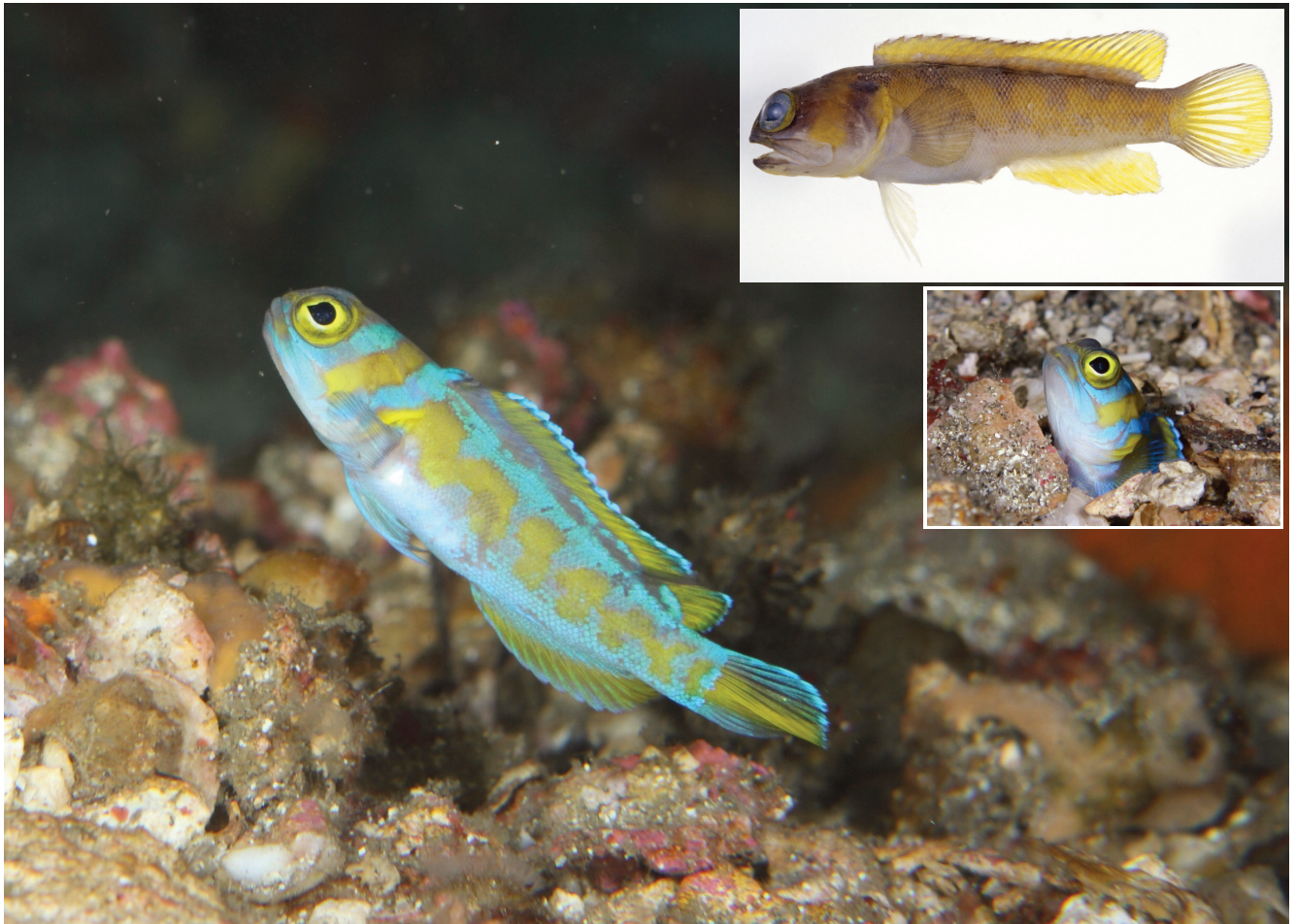
自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 16, No. 3

神奈川県立生命の星・地球博物館

Sept., 2010



アゴアマダイ

Opistognathus hopkinsi (Jordan et Snyder, 1902)

KPM-NR uncat.

伊豆海洋公園, 水深 52 m

2010 年 2 月 24 日; 枠内下: 2009 年
12 月 8 日 いずれも高瀬 歩撮影

枠内上

KPM-NI 16143, 体長 97.0 mm

熱海市網代沖, 水深 65 m

岡本光央氏により釣獲された標本

瀬能 宏撮影

瀬能 宏 (当館学芸員)

高瀬 歩 (静岡県伊東市)

2009 年 12 月 8 日、アゴアマダイ (アゴアマダイ科アゴアマダイ属) の水中写真が著者のひとり高瀬により撮影されました (枠内下)。アゴアマダイ科の魚は海底に自ら穴を掘って生活しており、雄が卵を口の中でふ化するまで保護する習性を持つことで有名です。警戒心が強く、危険を感じるとすぐに穴の奥に引っ込んでしまうため、撮影が難しい魚のひとつですが、年が明けた 2 月、ようやく全身の撮影に成功しました。

本種は今から 100 年以上も前の 1902 年、日本産魚類の分類学的研究で膨

大な業績を残したアメリカの魚類学者ジョルダンとその弟子スナイダーにより、相模湾三崎産の 1 標本に基づいて新種として記載されました。しかし、非常に稀な種であることや、採集すると水中での色彩が瞬時に失われてしまうため (枠内上)、自然状態での色彩は長い間不明でした。また、ダイビングでは容易に到達できない水深に生息しており、海底での生活を見たことのある人もいませんでした。ここで紹介する写真はそれらの謎を一挙に解き明かしたことになります。